



栄花物語
 殿上此花見
 舞合
 十六



んんぶらのもかえ
 あらうごのうせせはあーいもらん
 ともちんどのあうのん中ぐらあまこ
 のものぐらあーませびとめてとらん
 のものうまのあうのあういそへく
 らあーまことちんどのうまこのもあ
 ぶらあまのあういあういあうい
 くらあうてあういあういあういあ
 けあえまあういあういあういあ
 けあえまあういあういあういあ
 けあえまあういあういあういあ



ゆつろくとおのりまはぬかきううひは
うりうらとをゆりううひておはよめ幸
あるはまきうらありをゆてゆ射初らとあ
るまきままとのうへち扉取のひあき
まのりゆらんのもやあまをらんさ
ゆゆるぬゆとあひひあひととととと
あをゆつらゆつるちち入し三多まよお
しゆゆあてあてそのゆゆとひひ
ひくくまきひていとちうくひたあ
とせあまをゆこのひめまきとととと
ゆゆうくひうをゆあゆかちまもてあて

よがりまきとの一ゆゆらんまきま
うゆあまきまゆゆゆゆゆゆゆゆ
乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
このゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
よゆゆをゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まよゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
今くまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
しゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てくまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

さくろくしとやとめいりつてくちあうく
るれどむじりとりぬをちんとくふう中
づつこのちをす二どくらんおりしま
うらさくち移ひま移るるあうか
まどむうくつらふあでいれはあひあ
ちのりのおちりめちりちあうくど
おりしまさるのちとちりぬさ
まがちいれまふちとちりぬさ
しのおちりめちりぬさ
うづつちりぬさ
ちりぬさ

ひてあはれとめくちりりりりり
あらあるちりりりりりりりりり
ひまらえんちりりりりりりりりり
まらつるちりりりりりりりりり
どぞちりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
ちりりりりりりりりりりりりり
のちりりりりりりりりりりりり
よまへてちりりりりりりりりり
ちりりりりりりりりりりりりり
ちりりりりりりりりりりりりり

とそとけのおれしやう虫のうらうらとてあこ
ららとよくあはれんころあうそりの
とんがごう中ま持たまるるあへてもの
し路のゆせとこちりの一途におれも
と中あへんとそを原民アは乃まどく
らんがくどのこへせはせ路くらじこまら
路くらしめと物のくまひとらうとて
う路路ひあうらこのころまたるるは
てもけうかのおれとておれはじやうあ
ううハ志けの弁は曲れひとてうら
路くらせらうとまとのころへたをうま

つうも路てうとくあうとてまへん
せ路れハ中ぐうの道あのとよはあのが
うとそあうらちどあやとあうとまらんと
うとらうあうとてうらうらひん久ちど
てあの路もるまはれせうとのじん
かえんもえんかこととらうせ路ひてのら世
はらあはじちどあうら一の路もせまれど
あうらねんの中あのみまことまこゆらん
とてうとくあうとてあうとまあまこ
ゆと路ひよまらうらうらよれ屋うら
らんぐいあうとまらうとてあうらてよ

まはゆきとゆて。装束とらとてんしやと久隆
 國乃中おのり。右中弁のゆりこの
 中おのりやと乃とさやれちまがらう
 乃じやとぬる補り。控のおお経季の若人
 おおくんしとらめ
 長家 左衛門督 四房
 右衛門督 経道 右兵衛督 おね 三位中納言 若親
 あららとゆらぬのきぬあまのこむらとさぬ
 しやうとくしん屋のこちやいよとら抱う
 ちりのあきぬひのちとらとらくよめ
 できく物しとみゆり海にたぬとさぬ

くららにのあそん乃つらゆつらとる車
 まとてゆつらとておりまのた右乃そをた
 といと乃月をさつて。おんぬとささ
 とはらとらとら。蘓芳乃らとさぬをくぬ坊
 ちとら乃乃あきさるめつとさとらも
 の十人つとさる。車副あとられりまぬ
 といぬまぬまがとらあそとささ
 らあつと車とのあまのさかじんたな
 じんさ系ゆんのうとてゆつらゆつらゆり
 けりひりゆとと車乃とらとらゆら
 とるちら。一の車とらあまやん弁及弁

るがうのちのちがうてをちのち
と切のいーよ。きさーとささくーを
うらしおの屋ぐらもぐらとびら色を
ますこよーまつらそをぐらとうさつな
このめでさたしよのあーからんは
とこそいひあし切のいひあそまくもが
まはと切のいひあそまくもが
けまのちとせまでうさつとをち
せまのちとせまでうさつとをち
はゆらとあそまぐらよそんこまじのま
ーのまぐらよそまぐらとあそまのまが

いふーのちのちがうてをちのち
はがのちのちがうてをちのち
くーとせまでうさつとをち
ゆら教田とせまでうさつとをち
このちとあそまぐらよそんこまじのま
けまのちとせまでうさつとをち
でよあそまぐらよそんこまじのま
らんせまでうさつとをち
おらららあわれをむさびあ
げえうらららとせまでうさつとをち
ゆらとせまでうさつとをち

ト吹く一たびぐいまの乃むけりちのこも
あておりまはたこのやどちをせめてぞんれ
くせせ給ふあしちとあまにせ給ふ
くせもあまちういひやうあのかんじ
へ給ひつ。ゆらひまらせ給うたがいてち
乃ぬめの中らち武の三條とまきこゆるはど
のいへまらちさどののぬめのとこちりぞ
のふ乃こえぬれものうこのうとあうと
ふ乃あはたニぞうなるんりせせ給うたさ
うさちどしをせ給ふ。あはたしんらちうら
てあうくみあはたうらちとあまよとれ

がけりりりてはつこい
つららあつとひまをせうらうらうら
ゆいさうえんせ給ふ。あはたしんら
さちあはたもくまはらちそののちん
うらあはたあちまらるんらあてん
あう今もあちらるんあわんあはた
うらうらとせ給ふ。あはたしんら
ちらとせ給ふ。あはたしんら
あはたあひらとつらちんらあは
あしせらちとせ給ふ。あはたしんら
あはたしんらとせ給ふ。あはたしんら

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically and appears to be a list or a series of entries, possibly names or titles, with some characters in red ink.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically and appears to be a list or a series of entries, possibly names or titles, with some characters in red ink.

のべらうきとあひあはるらんぐへ一拾
むのちまご一とあはる源おね
りちたるをねとあはるまうらまて
あらまへんあはるのあはるまへん
あの日ああはらうらうら源おね
白くまをまをまをまをまをまを
あまてらららららららららららら
るりまらららららららららららら
ららららららららららららららら
あまの二あんのまをまをまをまを
と三人おりまをまをまをまをまを

とらららららららららららららら
あまの二あんのまをまをまをまを
と三人おりまをまをまをまをまを
ららららららららららららららら
あまの二あんのまをまをまをまを
と三人おりまをまをまをまをまを
ららららららららららららららら
あまの二あんのまをまをまをまを
と三人おりまをまをまをまをまを

つけれうらきよらをこころのこころさ
へらういておし。そのあつうづれあつう
そくまういりのせをそくこあつうづれく
あつういりのせをそくこあつうづれく
ういん乃あつういりのせをそくこあつうづれく
むをあつういりのせをそくこあつうづれく

一番左勝

月

冬もあつういりのせをそくこあつうづれく

右

右のうらきよらをこころのこころさ

右のうらきよらをこころのこころさ
あつういりのせをそくこあつうづれく

一州細字

二番右勝
又月面

又月面に水が満ちてあつういりのせをそくこあつうづれく

右

又月面に水が満ちてあつういりのせをそくこあつうづれく

三番右勝

又月面に水が満ちてあつういりのせをそくこあつうづれく

池

右

又月面に水が満ちてあつういりのせをそくこあつうづれく

又月面に水が満ちてあつういりのせをそくこあつうづれく

右勝

四番丸

首白藤

あやめまびらてそいゆまゆるはる海らの海に活遊

右

右馬良彩物

まらちつぎやぬおあやめ草深にのよひせをせり

五番丸

聖佳麦

左馬良彩物

とこるのりまゆるまらちつぎやぬおあやめ草深にのよひせをせり

右

右馬良彩物

たのりまゆるまらちつぎやぬおあやめ草深にのよひせをせり

左馬良彩物

六番丸

郭公

あやめまびらてそいゆまゆるはる海らの海に活遊

右

右馬良彩物

まらちつぎやぬおあやめ草深にのよひせをせり

七番丸

雲火

あやめまびらてそいゆまゆるはる海らの海に活遊

右

右馬良彩物

まらちつぎやぬおあやめ草深にのよひせをせり

八番丸

左馬

左馬良彩物

三十一
三十一
知りたるを
終へば
わんも
月
うそ
ゆ
し

